

科目名	物理Ⅱ Physics II			担当教員	沢田 功・遠藤 友樹		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義・実験	科目番号	12120018	単位区分	履修単位
学習目標	工学の基礎となる物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、数式として表現することで、科学的な考え方を定着させる。						
進め方	教科書・板書・演示実験を中心に講義を進め、内容の理解と応用力の要請のため問題演習を行う。一斉実験では予習を十分にいき、その日のうちに結果を考察し、レポートを作成する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 物体の運動(14) (1) 運動量と力積 (2) 運動量保存の法則 (3) はね返り係数 ----- [前期中間試験](2)			運動量の計算ができる。 運動量保存の法則の計算ができる。 はね返り係数の計算ができる。 学習・教育目標：(B)			
	試験返却(1) 2. 様々な運動(13) (1) 等速円運動 (2) 慣性力と遠心力 (3) 単振動 (4) 万有引力 前期末試験			等速円運動の計算ができる。 慣性力と遠心力の計算ができる。 単振動の計算ができる。 万有引力の計算ができる。 学習・教育目標：(B)			
	試験返却(1) 3. 波動Ⅰ(17) (1) 波 (2) 進行波 (3) 定常波と干渉 (4) 波の諸性質 一斉実験(10)：自由落下 比熱 運動量保存 等速円運動 ----- [後期中間試験](2)			波の計算ができる。 進行波の計算ができる。 定常波と干渉の計算ができる。 波の諸性質が理解できる。 実験のデータを取り、解析ができる。 学習・教育目標：(B)			
	試験返却(1) 4. 波動Ⅱ(19) (1) 音と共鳴 (2) ドップラー効果 (3) 光の屈折と幾何光学 (4) ヤングの実験による波動光学 一斉実験(10)：ボルダの振り子 気柱共鳴 メルデの実験 凸レンズ 後期末試験			音と共鳴の計算ができる。 ドップラー効果の計算ができる。 屈折と幾何光学の計算ができる。 波動光学の計算ができる。 実験のデータを取り、解析ができる。 学習・教育目標：(B)			
	試験返却(1)						
	適宜行う課題などを20%、定期試験を80%として評価する。 評価の点数は4回の定期試験についてそれぞれ25%とする。 一斉実験の評価は講義の定期試験に含めて行う。						
	評価方法						
履修要件	特になし						
関連科目	物理(1年) → 物理(2年)						
教材	教科書：「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」大槻義彦他著 実教出版 「物理学実験」沢田遠藤中島著(予定) 問題集：「エクセル物理Ⅰ+Ⅱ」実教出版						
備考	特になし						